

◆ 指導力向上 指導者講習会

2月3日、目覚めると外は雪。明治神宮の森は静まりかえり、「至誠館」周辺は時が止まってしまったかのようでした。雪がしんと降り続き、時折聞こえる弦音。何とも言い難い幻想的な世界でした。心が澄みきる思いで、前日からの体験が益々貴重なものになりました。

2日間の講習は私にとって有意義なものでした。まずは、範士五人による持ち的射礼が原則の間合いで行われたのを見て感動しました。原則の間合いでの射礼を見るのは何十年ぶりでしょうか。40年近く弓を引いてきて見たのはおそらく2回目くらいではないでしょうか。その中でも吉本会長のすごさを久しぶりに感じました。会長はやはり全国の範士の中にあっても別格の人でした。会長の射を普段常に拝見できる幸せを改めて思い知らされました。

自分の立場、環境を日々の中で流されないよう、忘れないよう謙虚でいなさいと言われていたようでした。また、実際に弓を引いて見せる、見てもらうことの大切さも学びました。今回、範士の先生方が射礼をたくさん披露してくださいましたが、その射礼に対して鈴木会長から手厳しい批評がなされました。それを聞かせていただいて思ったことは、一生懸命、そして、真摯に弓に取り組むことが見る人の心を打つということです。技に溺れることなく、弓に正対することが必要であることが実感できました。わかっていることのようにですが、頭ではなく、心で受け止められたように思います。

七段になったからといって何の成長もしておりません。今までのことは周りの人のお陰だと思いきす、未だに未熟な自分がいます。でもあせらないで、また、あきらめないで少しずつ歩んで行こうと考えています。

そんな思いを抱かせてくれた講習会でした。この機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

(西浦範光)

◆ 第15回近畿高等学校弓道選抜大会

1月20日(日)和歌山県田辺市弓道場に於いて、近畿高等学校弓道選抜大会が行われた。個人戦は男女各36名、団体戦は男女各14校が参加した。奈良県勢の結果は次の通り。

【女子個人戦】

第1位 檀原高校 藤井真美

第5位 高田商業高校 清水恵莉果

【男子個人戦】

第2位 高田商業高校 仲島勇気

第4位 檀原高校 高野勝大

【女子団体戦】

第1位 檀原高校

宮崎由祈子・赤井美穂・藤井真美・小松千希怜

【男子団体戦】

第2位 奈良北高校

吉岡潤平・岡山京介・和氣誠明・児玉祐介

◆ 檀原神宮建国記念奉祝百々手式

2月3日(日)雪のなか、表記の行事が執り行われました。檀原神宮の前庭で例年執り行っていたが、あいにくの天気で神宮へは代表参拝となり、百々手式は弓道場で執行しました。

小笠原宗家御臨席のもと、祓いの墓目(鎗矢をもって魔を祓う儀式)を小笠原若宗家、介添えは奈良県の塩谷、藤岡、乾が務め、行事が始まりました。

続いて大阪府、京都府、奈良県、岐阜県、三重県、徳島県、静岡県の小笠原同門の射手17名が3組に分かれそれぞれ1手の奉納射を行いました。



積雪のため、どれだけの人に来ていただくことができるのか心配でしたが、予定通り来ていただき無事執行することができました。

県連からの参加者は、塩谷、藤岡、乾、新司、井倉、清水、塩谷(子息)、古川、上所、西田、松澤、萩原、早山、深田、瀧井、寺口、吉岡、榎田、松村さんの19名、その他騎射から佐保川、桑、アレン(フランス人)さんの3名が参加しました。

これを機会に多くの方々に古式弓道というものに興味を持っていただきたいと思います。(新司 正人)

◆ 第37回近畿教職員弓道大会(報告)

2月11日 橿原公苑弓道場 参加者56名
吉本大会長によるご挨拶の後、束中の矢渡して感銘した余韻の残る中、競技を開始した。参加いただいた先生方のご協力のおかげで、大会はスムーズに運営された。
男子個人参段以下の部で 藤原 淳 さんが、若々しい思い切りのよい射で射詰めを制して、1位を獲得した。記録は以下の通り。

【団体の部】

- ▶ 男子(3名 計36射)
1位 20中 京都
2位 20中 兵庫E
3位 19中 和歌山
- ▶ 女子(2名 計24射)
1位 13中 和歌山
2位 12中 大阪兵庫連合
3位 8中 京都

【個人の部(12射)】

- ▶ 男子四段以上
1位 9中 井上(兵)
2位 9中 阿武(京)
3位 9中 田中康(和)
- ▶ 男子参段以下
1位 7中 藤原 淳(奈)
2位 7中 中島(大)
3位 7中 荒谷(大)
- ▶ 女子
1位 10中 吉森(兵)
2位 10中 石本(和)
3位 6中 松山(京)

お忙しい中、昨年度に引き続き臨席を賜った吉本会長に感謝申し上げますと共に、今後も多くの先生方の参加を期待します。(竹田浩一)

平成19年度県高校新人大大会兼学年別弓道大会

北部は2月9日日曜日、南部は10日日曜日に橿原公苑弓道場に於いて、新人大大会兼学年別弓道大会が行われた。競技は、3人立・立射・各自4射で団体・個人戦で行われ、入賞者は次の通り。(高塚 清稔)

【北部】(参加者 女子204名 男子 176名)

女子団体戦

- 1年生 平城G 法隆寺国際A 平城C
- 2年生 郡山D 奈良北B 郡山A
- 3年生 法隆寺国際B 奈良高専A 磯城野A

女子個人戦

- 1年生 品野 紗季(平城) 南 志歩(平城)
星野 実果(平城)
- 2年生 加藤 希保(郡山) 秀田 侑子(郡山)
田中 菜都美(平城)
- 3年生 森口 未雪(法隆寺国際) 中尾 茉矢(法隆寺国際)
今井 沙紀(奈良高専)

男子団体戦

- 1年生 磯城野A 奈良B 西の京A
- 2年生 郡山D 郡山C 平城D
- 3年生 法隆寺国際B 奈良高専A 法隆寺国際A

男子個人戦

- 1年生 松實 浩史(磯城野) 香川 祐樹(郡山)
河原 宏樹(磯城野)
- 2年生 栗田 祐一(郡山) 吉田 潤平(奈良北)
木曾 晃(郡山)
- 3年生 奥中 貴雄(奈良高専) 廣澤 誠哉(法隆寺国際)
加藤 泰鉉(法隆寺国際)

【南部】(参加者 女子126名、男子134名)

女子団体戦

- 1年生 橿原B 畝傍B 橿原A
- 2年生 橿原A 奈良北B 橿原B
- 3年生 大宇陀A 高田商業A 桜井A

女子個人戦

- 1年生 渡邊 果穂(畝傍) 石川 美佐希(橿原)
三好 有美(高田商)
- 2年生 赤井 美穂(橿原) 小林 かおり(高田商)
藤井 真美(橿原)
- 3年生 生駒 千尋(大宇陀) 大西 朋恵(高田商)
大丸 結佳(高田商)

男子団体戦

- 1年生 高田商業A 橿原A 王寺工業A
- 2年生 橿原A 五條A 高田商業A
- 3年生 王寺工業C 王寺工業A 五條A

男子個人戦

- 1年生 大塩 真央(高田商) 生駒 章人(高田商)
福本 大祐(王寺工)
- 2年生 櫻井 伸哉(橿原) 川村 篤史(畝傍)
坂口 公一(高田商)
- 3年生 二宮 睦樹(王寺工) 岡田 雄希(王寺工)
小林 拓也(榛生昇陽)

◆ 第4回大学連合会 講習会報告

2月17日 橿原公苑弓道場 参加者41名
主任講師： 県連指導部長 上田康夫
講師：指導部 明瀬憲正・平木一史・岡本薫子・森昌彦

奈良県弓道連盟大学連合会の射技・射術の向上と大学間の親睦を目的とし、各大学のキャプテン・リーダー等を対象とした講習会が行われた。午前は上田主任講師による矢渡し（介添え岡本、明瀬）と審査の間合いでの一手行射、および上田主任講師により全体的な講評が行われた。午後からは基本体の練習の後、上田主任講師より手の内と勝手のひねりの重要性について説明がなされた後、班別射技研修が行われた。寒さ厳しく吹雪の中の講習会となりましたが、準備・片付け等受講生が積極的に動き、見取り稽古に励む姿に、受講生の意欲が感じられる講習会となりました。

参加大学は以下の通り；
奈良大学、帝塚山大学、奈良教育大学、天理大学、奈良女子大学、奈良県立医大

(指導部 平木一史)

◆ 奈良県弓道 年齢別選手権大会開催 (予告)



「第6回奈良県交流大会」兼
「ねんりんピック予選会」

例年通り「ねんりんピック参加選手の予選会」を兼ね「奈良県弓道交流大会」が下記の要項により開催されます

ねんりんピック(*)は全国から弓人多数寄り集まり技と親睦を兼ねた楽しさ倍増、友好の場でもあります。段位に関係なく男女適齢者の方は是非とも全員参加をされますよう期待致します。

記

主催： 奈良県弓道連盟
共催：(財)健やか奈良支援財団
日時： 平成20年4月27日(日)
場所： 県立橿原公苑弓道場
資格： 昭和24年4月1日以前に生まれた人(県内居住者)
申込： 他日、各支部を通じ募集されます。

*ご参考

ねんりんピック(全国健康福祉祭)

主催： 厚生労働省・鹿児島県(財) 長寿社会開発センター
開催地： 鹿児島県下10市3町
開催日： 平成20年10月25日(土)~28日(火)
但し奈良県団は前日の24日(金)出発予定
詳細は通知あり次第お知らせ致します。



担当： 清水 勝 ・ 宮本 修
(電話：0744-43-0649) (電話・FAX:0742-45-8888)

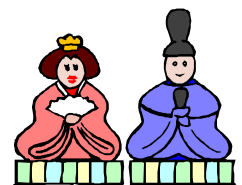
歳時記

「三月」 雛祭り

三月三日は、今日では女子のお祭りになっていますが、古くは浄心身の節句で忌ばらし・の意味で行われていました。袷いの人形と雛遊びなどが結びついたのでしょう。このように人形の遊びであったものが、徳川時代になると次第に精巧になり、道具や衣装などにも正しい考証が行われるようになり、紫宸殿(ししんでん)を模したり、享保時代には、武家雛もあらわれています。このように正しい考証が行われてくると、女子の教育にも使われました。当時女子の唯一の教育機関として、大きなお屋敷に奉公するしきたりがありましたが、この機会に道具類の名称、使い方、はしや椀の並べ方配膳、その他、日常目にふれないでも知って置くべきことごとが教えられたのです。

お膳なども、本膳、二の膳、三の膳の位置、食器の並べ方、中に入れる菜の作り方、箸使い、皿への盛りつけ、海、川魚の盛り方の区別も覚ええました。官女の持っている酒の器-長柄(銚子)、加柄(提子)の使い方、そそぎ方、三方のすえ方も実際に教育されました。

昔、嫁入り道具として第一にあげたのが貝桶です。1年を象徴した三百六十個のはまぐりの内側に美しい絵が描かれ、ふたはふたのみで一つの桶に入れ、二つで一組の貝桶になります。貝合わせの遊びなどに用いましたが、貝は自分のふた以外とは合わさらないことから、貞操を意味しました。男雛が左か右かの論は、地域によって色々言われていますが、日本の習慣では左が上位ですから男雛も左にきます。ただし上座からみて左ですの、向かって右になります。



「小笠原流マナー」 著者小笠原清信 グラフ社発行より

中塾狛大学藤原孝澄(中塾広樹)